

JACET-Kanto Newsletter

一般社団法人大学英語教育学会関東支部

March 31, 2023 No.20

JACET 関東支部ニューズレター第 20 号 (WEB 版) 刊行に寄せて

支部長 山口 高領 (秀明大学)

支部長を任せていただき、ほぼ2年が経とうとしています。現在の任期は、2023年6月の総会まででしたが、関東支部運営会議を経た結果、引き続き、私の任期は2025年6月の総会までとなりました。ここ2年は、新型コロナの影響を強く受ける中、オンラインでのサービス提供を充実させようと試みてきました。成果のいくつかは、オンラインでの学会運営、企画視聴録画データの期間限定共有、関東支部紀要のJ-STAGEでの掲載などです。今後、web掲載されていない支部刊行物を、JACET 会員に限ってオンデマンドの期間限定共有することによって、これまでの支部の蓄積をより利用しやすくするといった企画も考えています。

運営委員会の先生方に助けていただきながら、JACET の理事会に参加し、関東支部の運営の責任者となっております。よりよい運営のために、ご質問、ご意見をお気軽にいただきましたら幸いです。

2023年度からは、研究企画委員には、浅利庸子先生、大井洋子先生、小木曾智子先生、神村幸蔵先生が加わって頂けることが決まっております。

2022年度に関東支部で行われたことは以下です。

- (a) 第15回支部大会(7/9)
- (b) 支部講演会(6/11, 10/8, 12/10)
- (c) 支部企画ワークショップ(11/5)
- (d) 支部総会(7/9, 11/5)
- (e) 「JACET-Kanto Journal Vol.10」の発行 (3/31)
- (f) 関東支部ニューズレター第19号の発行 (9/30)
- (g) 関東支部ニューズレター第20号本号の発行 (3/31)

本ニューズレターでは、10月からこの3月までに行われた第2回支部総会、支部講演会、支部企画ワークショップ、支部研究会活動報告、関東支

目次	
・ <u>巻頭言</u>	
JACET 関東支部長 山口高領.....	- 1 -
・ <u>第2回支部総会報告</u>	
支部事務局幹事 長田恵理.....	- 2 -
・ <u>支部講演会委員会報告</u>	
支部講演会委員 青木理香	- 3 -
・ <u>JACET 関東支部企画報告</u>	
山口高領.....	- 5 -
・ <u>支部大会運営委員会からのお知らせ</u>	
支部大会運営委員長 山口高領.....	- 6 -
・ <u>支部紀要編集委員会からのお知らせ</u>	
支部紀要編集委員長 鈴木彩子.....	- 6 -
・ <u>事務局だより</u>	
支部事務局幹事 長田恵理.....	- 7 -

部紀要の最新号の概要が掲載されています。

第2回支部総会報告

支部事務局幹事

長田恵理（國學院大學）

2022年11月5日（土）にオンラインで、2022年度第2回支部総会が開催されました。支部総会では、2023年度支部事業計画・予算案及び2023年度支部人事についての説明が行われました。以下に内容を記載いたします。日程等の詳細についてその後変更あるいは確定した場合、そちらを反映させておりますことをご理解ください。予算案については省略致します。

■2023年度支部事業計画■

I. 大会、セミナー等の開催（1号事業）

（1）支部大会の開催

名称：2023年度関東支部大会

日程：2023年7月8日（土）

場所：オンライン

規模：約150人

（2）講演会及びワークショップの開催

名称：JACET 関東支部講演会

日程：2023年6月10日（土）、10月14日（土）、

12月9日（土）の3回を予定

場所：未定（オンライン、対面、あるいはハイブリッド）

内容：未定

規模：毎回約60人

目的：

- 1) 支部講演会では、講演会を定期的実施することで、会員・非会員にとっての学びの場を提供する。
- 2) 研究者同士の交流・発展の場を提供する。

（3）支部企画の開催

名称：JACET 関東支部企画

日程：2023年11月4日（土）を予定

場所：未定

内容：未定

規模：約60人

目的：

- 1) 支部講演会のない月に実施することで、会員・非会員にとっての学びの場を提供する。
- 2) 研究者同士の交流・発展の場を提供する。

II. 『紀要』『支部ニューズレター』等の出版物の刊行（2号事業）

（1）『JACET 関東支部紀要』第11号（英語名：JACET-KANTO Journal）

日程：2024年3月31日（金）

形態：XMLデータ（ウェブ掲載）

目的：

- 1) 広く原稿を募集し、支部会員の研究の活性化と質の向上を図る。
- 2) 既存の種別に加え、新たな種別の創設などを通して若手研究者の発掘・育成を試みる。

以上、査読を充実させることにより、様々な研究分野や研究手法を評価できるように努める。

（2）「JACET 関東支部ニューズレター」

日程：2023年9月30日（第21号）

2024年3月31日（第22号）

形態：オンライン（JACET 関東支部ホームページにPDFで掲載）

目的：支部活動の動向や支部会員への英語教育に関する情報提供と情報交換を行う。

III. その他（5号事業）

（1）支部総会の開催

名称：2023年度第1回、第2回関東支部総会
<第1回>

日程：2023年7月8日（土）

形態：オンライン

目的：2022 年度の支部の事業報告、会計報告及び 2022 年度の支部の事業計画

<第 2 回>

日程：関東支部企画と同日に実施予定

形態：オンライン

目的：2024 年度の支部事業計画、予算案及び人事案の審議

(2) 支部役員会の開催

名称： 関東支部運営会議

日程： 2023 年 4 月 8 日、5 月 13 日*、6 月 10 日、9 月 9 日*、10 月 14 日、11 月 4 日、12 月 9 日、2024 年 1 月 13 日*、3 月 10 日を予定（*の日程については必要な場合に限り実施する。）

形態： オンライン

目的： 支部の運営における審議、計画の立案

■2023 年度支部人事■

【支部人事】（2023 年度より任期 2 年間）

支部長（1 名） 山口高領

副支部長（1 名） 長田恵理

支部事務局幹事（1 名） 佐竹由帆

支部幹事（3 名） 佐竹 由帆、新井 琢磨、
鈴木健太郎

支部会計担当者（2 名） 辻りりこ、渡辺彰子

支部研究企画委員（25 名）

青木理香、新井巧磨、伊藤泰子、上田倫史、長田恵理、小張敬之、河内山晶子、小屋多恵子、佐竹由帆、佐野富士子、史傑、下山幸成、鈴木健太郎、関戸冬彦、田口悦男、辻りりこ、中竹真依子、中山夏恵、西川恵、馬場千秋、藤枝豊、藤尾美佐、Paul McBride、山口高領、渡辺彰子

上記に加えて、2023 年度より以下の 4 名を追加。

大井洋子先生（青山学院大学非常勤講師）

神村幸蔵先生（筑波技術大学）

小木曾智子先生（富山大学）

浅利庸子先生（早稲田大学）

【本部役員（理事）】（任期は、2023 年定時社員総会の日から 2 年後の定時社員総会まで）

支部長（1 名） 山口高領

（2023 年 6 月定時社員総会后～2025 年 6 月まで）

支部講演会委員会報告

支部講演会委員

青木理香（東洋大学）

■2022 年度下半期活動報告■

2022 年度下半期は、10 月と 12 月に支部講演会がオンライン開催された。10 月 8 日には、帝京科学大学教授の馬場千秋先生をお招きして、「多様な学生を対象としたリメディアル英語授業」というタイトルでご講演いただいた。大学全入時代と言われる昨今、英語教員として知っておくべき学生の現状、必要な意識改革、そして具体的な指導例を示していただき、大変有意義な講演会となった。12 月 10 日には、イタリアからヴェネツィア・カフォスカリ大学教授のマルチェッラ・マリオッティ先生と日本語講師の西田翔子先生をお招きし、「ヴェネツィア・カフォスカリ大学での日本語教育—多様な実践のあり方へ—」というタイトルでご講演いただいた。イタリア随一といわれるカフォスカリ大学における日本語教育の歴史、カリキュラム、さらに学生が社会で日本語を使用しながら活動していくための日本語教育の展望をお話いただき、日本語以外の言語を教える教員にとっても得るものが大きい講演会だった。発表詳細については、後述の支部講演会報告・概要を参照されたい。

■下半期支部講演会 発表概要・報告■

(1) 第 2 回支部講演会

日時：2022 年 10 月 8 日（土）16:00-17:20

講師：馬場千秋 先生（帝京科学大学教育人間科学部教授）

場所：オンライン (Zoom)

題目：多様な学生を対象としたリメディアル英語
授業

発表概要：少子化により、各大学の入試形態が多様化していることにより、英語の試験を受けずに大学に入学する学生の割合が多くなっている。実際の英語力を見ると、文部科学省の2021年度英語教育実施状況調査によれば、CEFR A2 (英検準2級) 相当以上の高校生は46.1%という結果が出ている。また、国語力のない大学生も増えてきている。そのため、一般教養の英語科目では英語の基礎力のない学生、教員養成の専門科目では日本語の意味が理解できない学生やノートテイキングができない学生を目の当りにする。本講演では、英語授業における教室での学生の現状を振り返り、(1)授業以前の学生指導、(2)学生に英語に興味関心を持たせるための指導と教材の工夫、(3)少しでも英語力を伸ばすための方策、について取り上げる。

報告：英語力が低い学生、学習習慣がない学生、モチベーションの低い学生など、リメディアル教育が必要な学生が増えている今、大学教員は学問を教えるだけでなく、高校までと同様に人間形成にも関わり手厚い指導を行う必要がある。つまり、教授者としてだけでなく、ファシリテーターやカウンセラーの役割も担わなければならない。このような現状において、学生の英語に対する興味や自信を育てるための効果的な指導法や教材、対応方法について、ご自身の実践例や具体的なエピソードを通してわかりやすく説明していただいた。特に、学習習慣がない学生に対する指導、クラス内の学生の英語力に差がある場合の対応、英語に苦手意識を持っている学生に自信を持たせる指導、さらにクラスサイズが大きい場合の対応など、英語教員がしばしば直面する難しい状況における解決策を示していただいた。講演の

最後には8項目のチェックリストが提示され、参加者がすぐに自身の授業づくりに組み込める実践的なアドバイスを数多くいただき、英語教員にとって大変貴重な機会となった。

(青木理香・東洋大学)

(2) 第3回支部講演会

日時：2022年12月10日(土)16:00-17:20

講師：マルチェッラ・マリオッティ 先生 (ヴェネツィア・カフォスカリ大学日本語教育学准教授)、西田翔子 先生 (ヴェネツィア・カフォスカリ大学日本語講師)

場所：オンライン (Zoom)

題目：ヴェネツィア・カフォスカリ大学での日本語教育—多様な実践のあり方へ—

発表概要：ヴェネツィア・カフォスカリ大学における日本語教育は1873年に始まり、現在では1000人以上(学部・修士)の学生が在籍する。本発表では、同大学の日本語教育カリキュラムおよび多様な日本語教育実践のあり方を紹介する。マリオッティ先生はNoLBrick (No-Level Brick Foreign Language Education) 研究プロジェクトを立ち上げ、レベルや学年の概念に捉われない言語教育を実践してきた。そこには教師に導かれてではなく、学生自身が考え、自分の日本語を模索する姿がある。パンデミック中に企画した学内プロジェクトや、未来の日本語教育者・研究者育成の取り組みにも触れながら、社会とつながる日本語教育実践の展望を述べる。

報告：本講演では、イタリアの日本語教育、イタリアの高等教育、カフォスカリ大学の概要、インターンシップを例にした教室外での取り組み、及び日本語教育実践と社会とのつながりの展望の5つのトピックに焦点が当てられた。まず、ヨーロッパにおける日本語教育の背景として、EUとイタリアで実施された統計から、高等教育機関に

における日本文化への関心が継続的かつ堅調に伸びていることが紹介された。1873年に始まったヴェネツィア・カフォスカリ大学の日本語教育プログラムは、現在、学部と修士課程で1,000人以上の学生が学んでいる。同大学の日本語教育カリキュラムとその教育方法は多岐にわたり、多くのカリキュラムや課外活動、プロジェクト、そしてパンデミック期間中のインターンシップの機会が提供されている。代表的なインターンシップとして紹介されているのが、マリオッティ先生が立ち上げたeラーニングベース・バーチャルビジネス日本語インターンシップ「NoLBrick (No-Level Brick Foreign Language Education)」で、教室での学習と卒業後の専門日本語の実践を結びつけている。この研究プロジェクトは、日本語教育がレベルや学年、大学の枠にとらわれず、学生が教師に指導されることなく自律的に活動できることを目的としている。本講演の最後には、日本語教育実践の展望をどのように社会と結びつけていくかが議論された。

The talk focuses on the following topics: Japanese language education in Italy, higher education in Italy, a general overview of Ca' Foscari University of Venice, initiatives outside the classroom with examples of internships, and the prospects of connecting Japanese language education practice with society. As an introduction to the background of Japanese language education in Europe, related statistics from both EU and Italy are given, showing continuous and strong growth in the interest in Japanese culture at tertiary levels. Japanese language education at Ca' Foscari University of Venice began in 1873 and currently has more than 1,000 students in undergraduate and master's programs. The university's Japanese language education curriculum and its teaching

practices are diverse and offer many curricular and extra-curricular activities, projects, and internship opportunities during the pandemic period. One representative internship introduced is an e-learning-based and virtual Business Japanese internship, NoLBrick (No-Level Brick Foreign Language Education), launched by Prof. Mariotti, that connects classroom-based learning with post-graduation professional Japanese language practices. In this research project, Japanese language education is not bound by the concept of levels and grades or university boundaries and allows students to work autonomously and not be guided by teachers. This talk finally discusses the prospects of how Japanese language education practice can be connected to the society. (SHI Jie・電気通信大学)

■2023年度上半期活動計画■

2023年度上半期は、2023年6月10日(土)に第1回支部講演会の開催を予定している。下半期には第2回は10月14日(土)、第3回は12月9日(土)に開催予定。講演者等の詳細は、決定次第JACET関東支部メーリングリスト等でお知らせする予定である。

JACET 関東支部企画報告

JACET 関東支部

山口 高領 (秀明大学)

■JACET 関東支部企画ワークショップ■

ここ数年、関東支部企画では、研究手法のワークショップを行っておりますが、本年度も同様のワークショップを行いました。ワークショップ講師として、高橋知也先生をお呼びしました。博士号(心理学・学術)取得後、東京都健康長寿医療

センター研究所にお勤めの先生です。ワークショップのタイトルは、『今日から始めるベイズ統計』であり、14:00 から 16:00 まで行われました。録画を許可していただき、希望する JACET 会員に一定期間視聴できる配慮を行いました。以下に、発表概要を再掲載します。

日時：2022 年 11 月 5 日（土）14:00-16:00

場所：オンライン

題目：今日から始めるベイズ統計

講師：高橋知也先生（東京都健康長寿医療センター研究所）

概要：近年、これまで教育・心理統計などで広く用いられてきた推測統計とは異なるアプローチとして、ベイズ統計を用いた研究が増えつつある。ベイズ統計は有用な手法ではあるが、推測統計に比べてまだまだ専門書や研修の機会が少なく、学ぶ必要性を感じつつ機会を得られない方も多いと思われたため、今回のワークショップでは、推測統計とも比較しながら、分かりやすさに重点を置いてベイズ統計を紹介するとともに、(R や Stan などの統計ソフトではなく) エクセルを用いた実践からベイズ統計の活用について考えた。

を設定致しました。基調講演とワークショップを Jo Mynard 先生（神田外語大学）と加藤聡子先生（神田外語大学）にお引き受け頂きました。すでにアブストラクトと時間帯は確定しています。
http://www.jacet-kanto.org/2023convention/2023_Key_note-WS-Abstracts.pdf を御覧ください。Jo Mynard 先生は在学研究中の発表になると伺っています。オンラインだからこそできる企画と考えております。

研究発表、シンポジウム、ワークショップ、SIG 発表などへのお申し込みを 3 月 31 日まで受け付けておりますが、JACET 国際大会の採択通知が遅れた場合、申込み延長をすることも検討していません。関東支部以外の JACET 会員も例年参加されていますので、是非、発表応募やご参加をご検討ください。

昨年同様、大会の前後に打ち合わせなどができるよう、都内の大学にて会場を確保する予定です。また、オンライン開催の強みを生かして、発表者が許可した発表の録画視聴を Google Drive で共有する予定です。詳しくは
<http://www.jacet-kanto.org/2023convention/index.html> を御覧ください。

支部大会運営委員会からのお知らせ

支部大会運営委員長
山口高領（秀明大学）

JACET 関東支部第 16 回支部大会を 7 月 8 日（土）にオンラインで開催します。2023 年度は JACET 国際大会が対面で開催されることを受け、様々なニーズにお応えするためには、関東支部は、全国の JACET 会員にオンライン大会を行うのがよいのではと考えました。

今回の大会テーマとして「言語学習アドバイジング：その可能性を深く知る (Language Learning Advising: A Profound Understanding of Its Potential)」

支部紀要編集委員会からのお知らせ

支部紀要編集委員長
鈴木彩子（玉川大学）

支部紀要編集委員会では毎年 3 月末に紀要を発行しています。現在、2022 年度「関東支部紀要・第 10 号 (JACET-KANTO Journal Vol. 10)」完成に向けて、校正作業を行っています。第 10 号には計 7 本の応募があり、審査を通過した研究ノートに掲載を予定しています。

また、第 10 号では関東支部紀要初の試みとなりますが、寄稿の掲載も予定しています。昨年度の第 3 回支部講演会 (2021 年 12 月 21 日) で講演を

していただきました佐野富士子先生（元横浜国立大学）にお願いをいたしまして、その時の講演『教育実践に取り入れたい最新の SLA 研究－ISLA(学びの場における SLA)を中心に』を論文としてご寄稿いただきました。講演に参加された多くの方からの「ぜひ論文にして欲しい」という声を受けまして関東支部紀要のために執筆いただけましたことは、紀要編集委員会としては大きな喜びです。また、今後も講演会等での発表を寄稿という形で紀要にお招きし、会に参加できなかった支部会員にお届けできるといいなと考えています。更に、寄稿という形が新たに加わったことにより、紀要の役割も一つ広がったことになり、気の引き締まる思いです。

今年度の投稿に関しては、「論文としては優れているが JACET 関東支部紀要が適切な発表の場ではないのではないか」と判断させていただいたものが幾つかありました。我々としましても「いい論文であるならば掲載したほうがいいのか」という葛藤もあり、悩みながらの判断となりました。しかしながら、やはり支部会員の方々の研究興味と合致するものをお届けするのも、一つの使命だと考えております。この点について、この場を借りて提示させていただきたいと思えます。

さて、昨年度の紀要は、JACET 関東支部ホームページでまずは PDF での公開をし、その後 J-Stage での Web 公開となりましたが、本年度は J-Stage のみでの公開を予定しています。これまでと掲載形式が変わりますが、この変化により、より多くの方にアクセスを頂けるようになると思っております。第 10 号の発行までもう少しお待ちいただければと思えます。

紀要編集委員会メンバー：鈴木彩子（委員長）、今井光子（副委員長）、大野秀樹、長田恵理、小屋多恵子、鈴木健太郎、田口悦男、中竹真依子、Paul McBride（敬称略、50 音順）

事務局だより
支部事務局幹事
長田恵理（國學院大學）

例年、年度末号に記載してございました関東支部所属 SIG の活動報告は、本号より記載しないこととなりました。活動内容につきましては、JACET 通信に掲載されますので、ご覧いただけましたら幸いです。

■住所変更届提出のお願い■

転居やメールアドレス変更など登録情報変更の際には、JACET 本部事務局へ変更届を提出してくださいませよう、どうぞよろしく願いいたします。

JACET-Kanto Newsletter 第 20 号

発行日：2023 年 3 月 31 日

発行者：JACET 関東支部（支部長 山口高領）

編集者：長田恵理、佐野富士子、
藤尾美佐、下山幸成

発行所：〒225-0003 神奈川県横浜市青葉区新石川
3-22-1 國學院大學人間開発学部
長田恵理 研究室内